

⑬一般国道470号 能越自動車道 輪島道路

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

キーワード 高規格道路、開通、地域連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

輪島道路（のと三井IC～のと里山空港IC）約4.7kmの建設。デジタル技術や大型ドローンなど既往技術を用いた道路施工の効率化などとともに、地域住民や建設業者の連携を醸成するソフトの取組をバランス良く取り入れている点が評価された。

1. はじめに

能越自動車道は、石川県輪島市から富山県砺波市に至る延長約100kmの高規格道路網を形成する一般国道の自動車専用道路である。このうち、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所では、輪島市街地とのと里山空港ICを結ぶ11.5kmの区間で輪島道路の整備を進めており、令和5年9月16日にのと三井ICからのと里山空港IC間の4.7kmが開通した。

2. 事業の概要

輪島道路は平成18年度に事業化し、改良工事や6橋の橋梁工事等を進めてきた。急峻な山岳地形を通るルートであることから、多段の切土・盛土が多いことが一つの特徴である。

施工時にはICT施工をはじめ大型ドローンやAR技術などの最新技術を用いて生産性の向上に取り組んだ。例えば、狭隘な工事用道路の制限からクレーンでは高所への運搬に限界があったところを大型ドローンによる資材運搬を行い、効率的な施工を可能とした。

また、輪島道路の盛土部分には発生土を転用する予定としていたところ、一部区間で盛土材として転用が困難な平均径1.0m超級の巨石が多数発生したが、破碎処理を追加で実施することで盛土材として有効利用を図るなど、現場で発生する不測の状況を克服しながらの施工となった。



大型ドローンで
高さ28mの4段目の小段
(9階建てのビル相当)まで運搬

大型ドローンによる資材運搬

3. 事業の成果

開通に向け、機運の醸成や若者世代の道路事業に対する興味・関心を高めることを目的に、現場見学会や開通プレイベント等を積極的に開催した。

令和5年6月の現場見学会では、地元小学生と保護者の計92名で約600個のペットボトル（プラスチック容器内にLEDが組み込まれているもの）を用いた「いよいよ開通」のイルミネーションを設置したほか、開通1週間前には、本線上でサイクリング・ウォーキングイベントを開催し、地域住民をはじめ県内外からサイクリング54名、ウォーキング300名と多くの参加を頂いた。開通の3日前から前日にかけては、開通区間内に位置する高架橋の橋脚を活用したデジタルアートによるカウントダウンを行った。

令和5年9月16日にのと里山空港ICにおいて、北陸地方整備局、石川県、輪島市の主催で開通式典を執り行うことができた。



開通式典の様子

4. おわりに

輪島道路の整備は地域の期待が大きく、今回の開通前にその機運を醸成する取組を積極的に行ったことで、地域全体で開通を盛り上げることができた。ご尽力、ご協力頂いた関係各位に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。開通以降は、通勤・通学や物流など多くの方々に使っていただき、地域の方々に愛される道路、能登地方のより一層の活性化に貢献する道路になると期待している。

本道路は、令和6年能登半島地震直後、いち早く2車線対面通行を確保しており、今後整備が進むⅡ期区間とともに、甚大な被害を受けた被災地の復旧・復興に寄与する道路となることも期待している。

賛助会員 (株)オリエンタルコンサルタンツ、鹿島道路(株)、川田工業(株)、(株)建設技術研究所、清水建設(株)、昭和コンクリート工業(株)、(株)NIPPO、日本工営(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)北都鉄工